

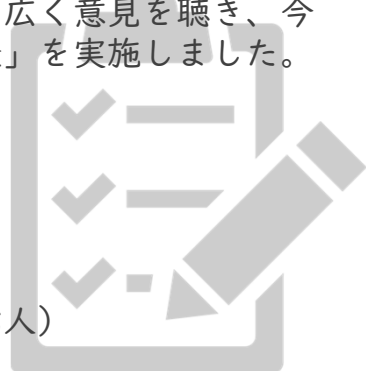
1. 調査の概要

調査の目的

- 「能代市都市計画マスタープラン」の改定および「能代市立地適正化計画」の策定に向け、市の現状や将来のまちづくりの方向性などについて、市民の皆さまから広く意見を聴き、今後の取組の参考とするため、令和2年9月末に、「市民アンケート調査」を実施しました。

調査の概要

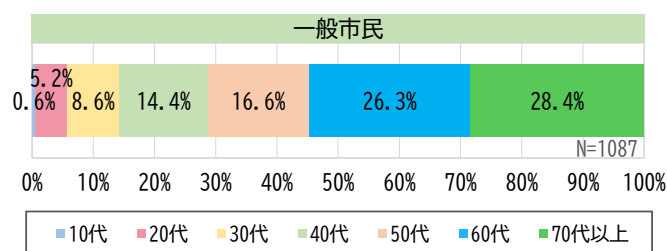
- 一般市民調査（令和2年4月1日時点で18歳以上の市民2,000人）
：回収率54.4%（=1,087人/2,000人）
- 高校生調査（市内の高等学校に通学する高校生のうち、現2年生の588人）
：回収率97.4%（=573人/588人）



2. 調査結果の概要

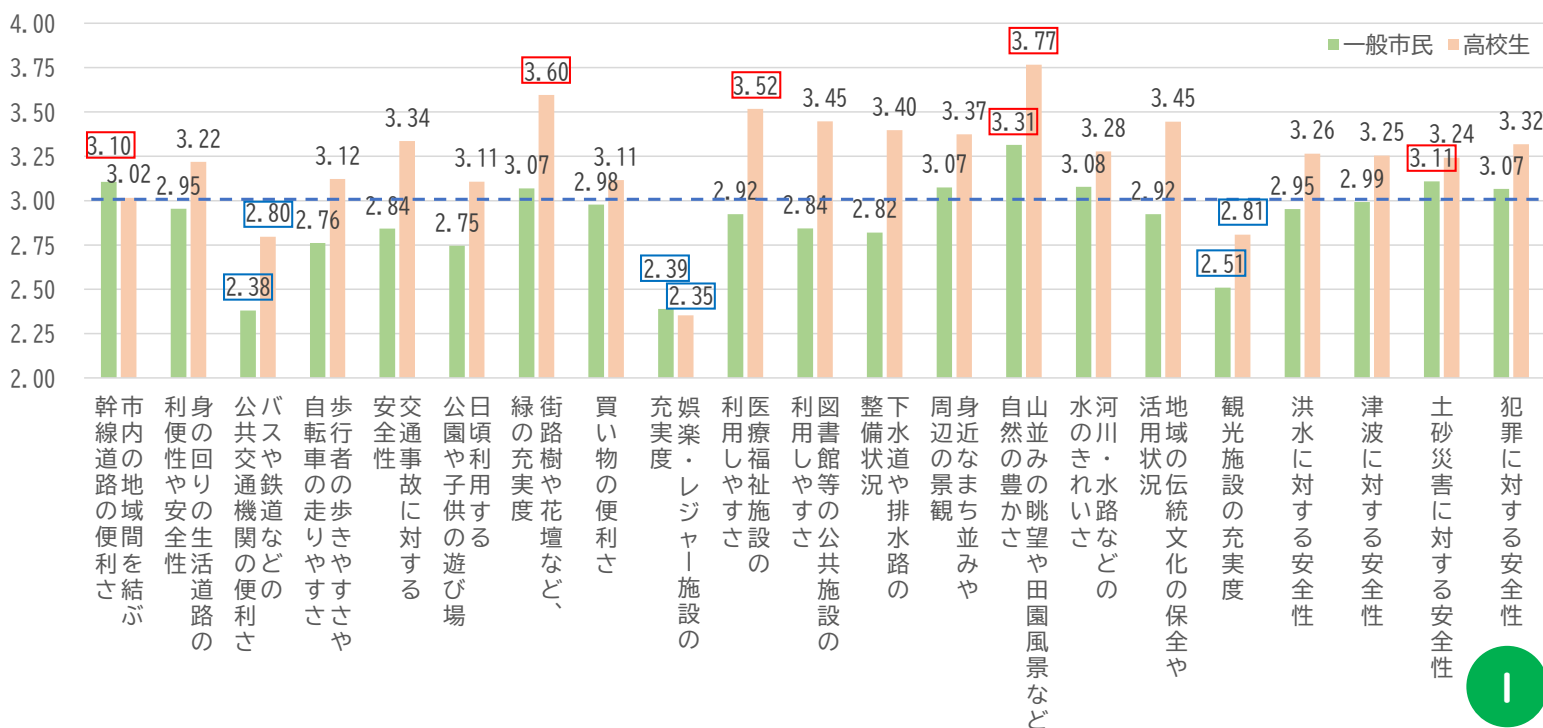
(1) 回答者属性

- 一般市民（以下、「市民」という）の回答者は、70代以上が28.4%と最も多い状況です。また、回答者の半数以上が60代以上です。
- 高校生は、全員が高校2年生（16または17歳）です。



(2) 日常生活についての評価

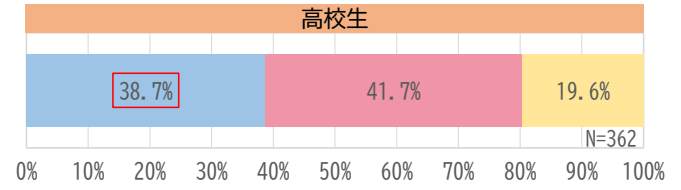
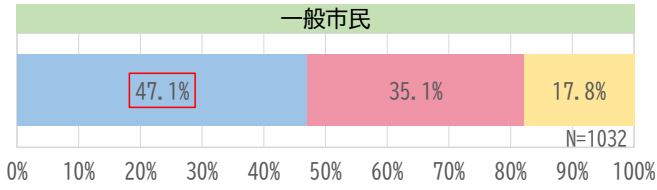
- 市民・高校生ともに「自然の豊かさ」の満足度が最も高く、その他は、市民で「土砂災害の安全性」や「幹線道路の便利さ」、高校生で「街路樹等緑の充実度」や「医療福祉施設の利用しやすさ」が挙げられました。
- 一方、市民・高校生ともに「公共交通機関の便利さ」や「娯楽・レジャー施設の充実度」、「観光施設の充実度」の満足度が低くなっています。



(3) 居住地域に不足する施設の有無およびその内容

①不足する施設の有無

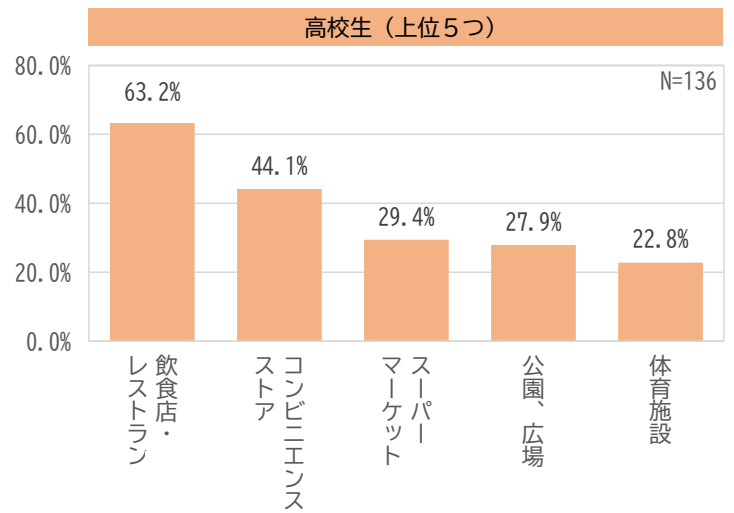
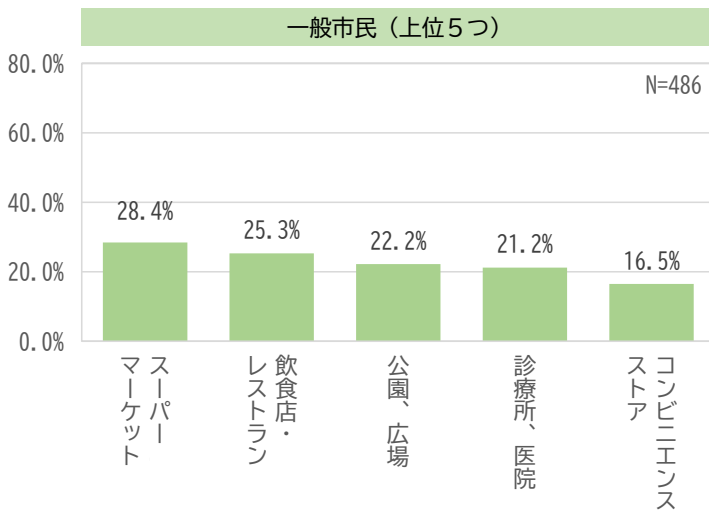
- 不足する施設が「ある」という意見は、市民で47.1%、高校生で38.7%となっています。



■ある ■ない ■わからない

②不足する具体的な施設

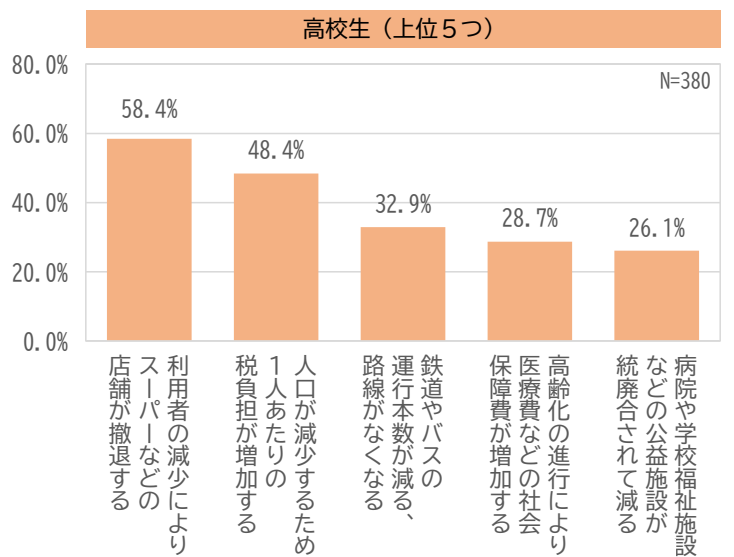
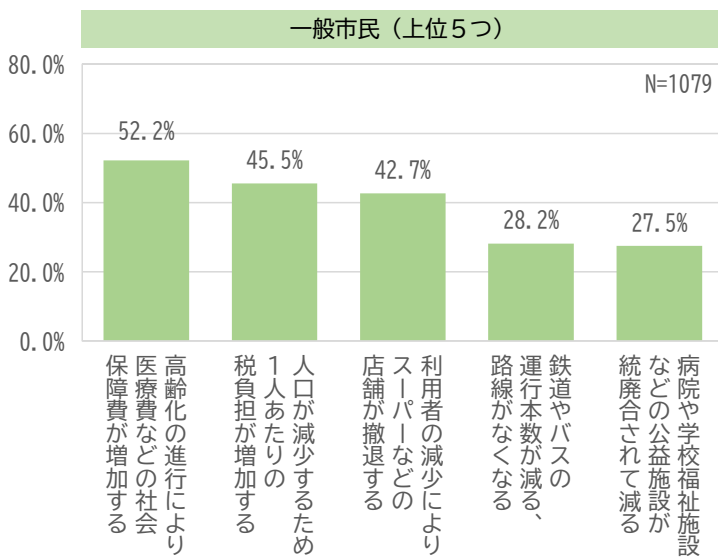
- 具体的な不足する施設として、市民・高校生ともに「スーパーマーケット」や「飲食店・レストラン」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「公園、広場」、高校生で「コンビニエンスストア」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(4) 人口減少・少子高齢化により日常生活に影響が生じると困ること

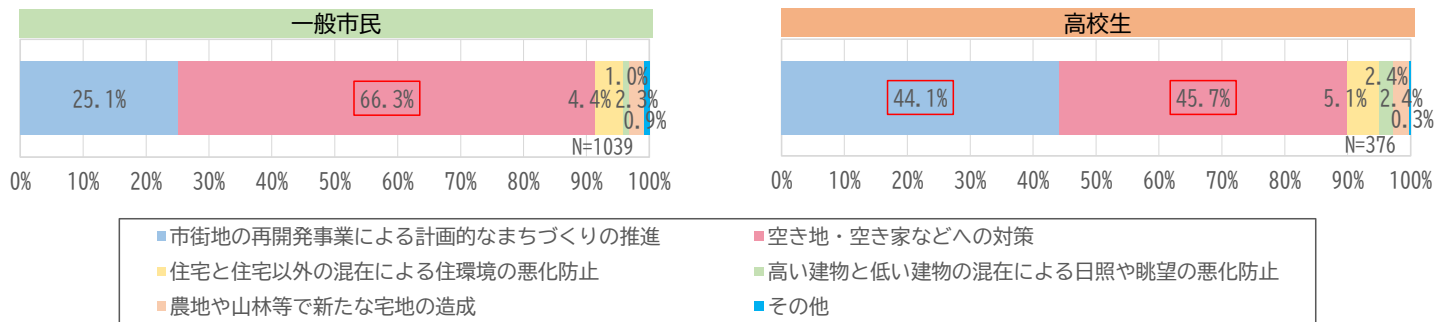
- 市民・高校生ともに「税負担の増加」や「スーパー等の撤退」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「社会保障費の増加」、高校生で「公共交通の減便・廃止」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

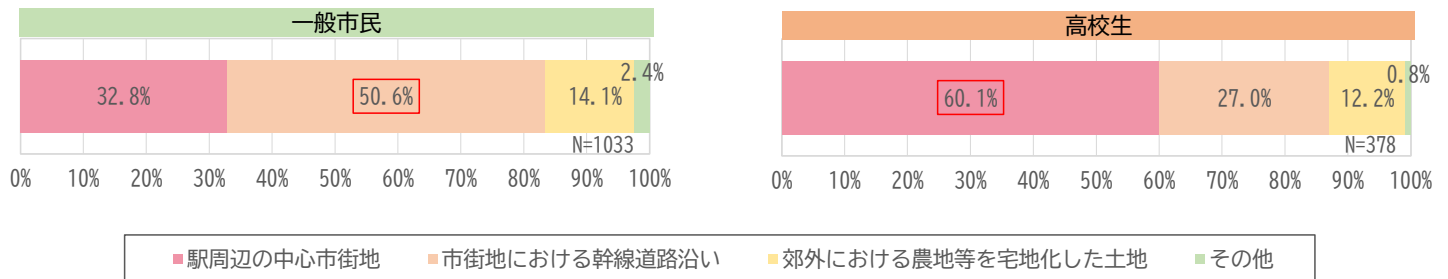
(5) 今後の住宅地のあり方

- 市民・高校生ともに「空き地・空き家などへの対策」がもっとも多く挙げられました。
- 高校生では、「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進」についても、「空き地・空き家」と同程度の意見が挙げられています。



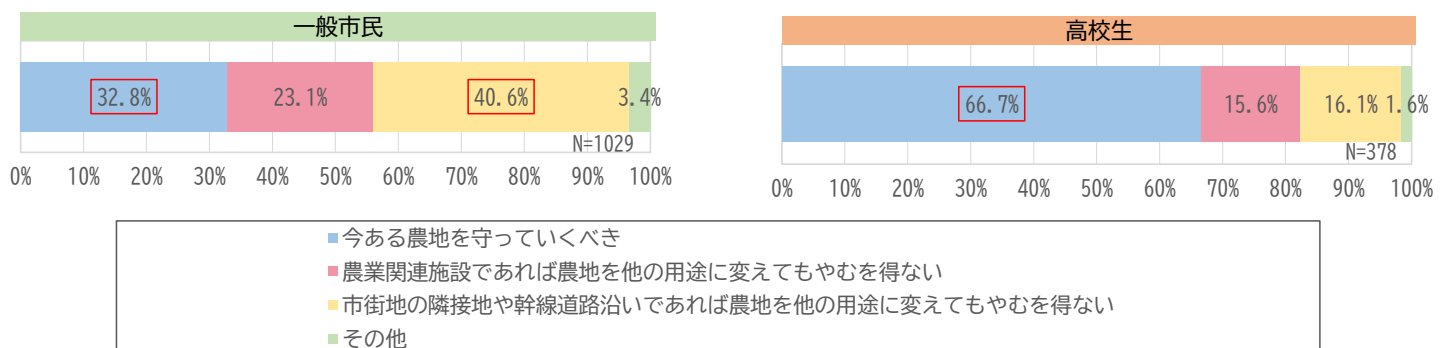
(6) 商業地の集積地として望ましい場所

- 市民では、「市街地における幹線道路沿い」がもっとも多く、約50%を占めています。
- 一方高校生では、「駅周辺の中心市街地」がもっとも多く、約60%を占めており、市民との相違が確認されます。



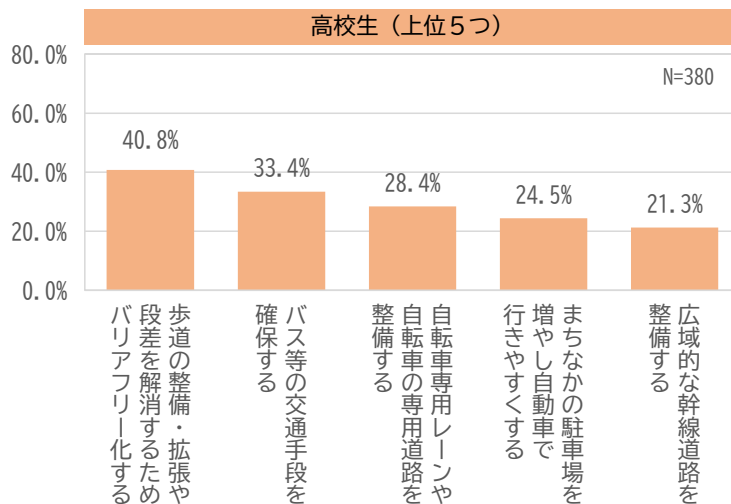
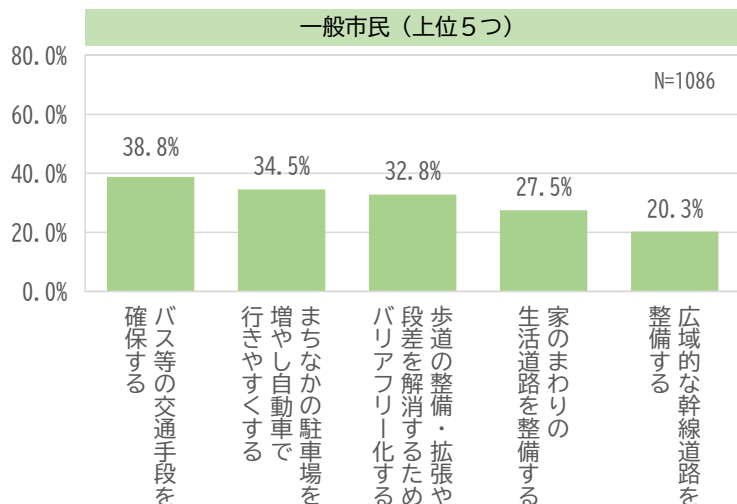
(7) 今後の農地のあり方

- 市民では、「市街地隣接地の幹線道路では他用途への転用もやむを得ない」がもっとも多く、次いで「今ある農地を守る」の順となっています。
- 一方高校生では、「今ある農地を守る」がもっとも多く、約65%を占めており、市民との相違が確認されます。



(8) 道路整備や交通について力を入れるべき整備や取組

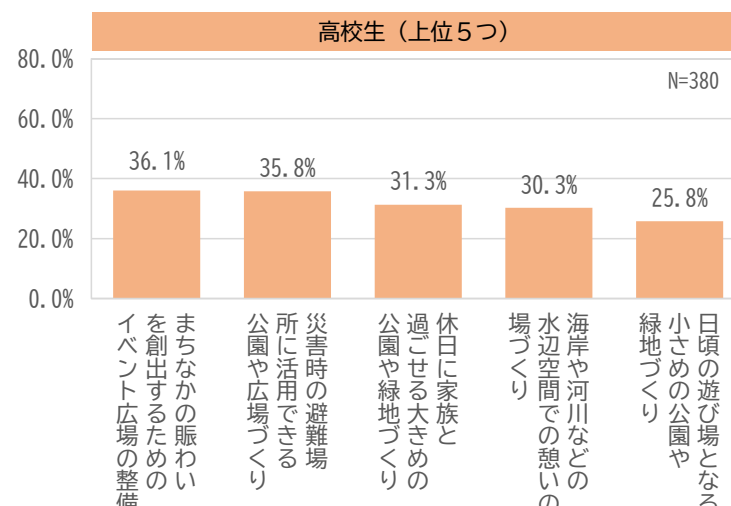
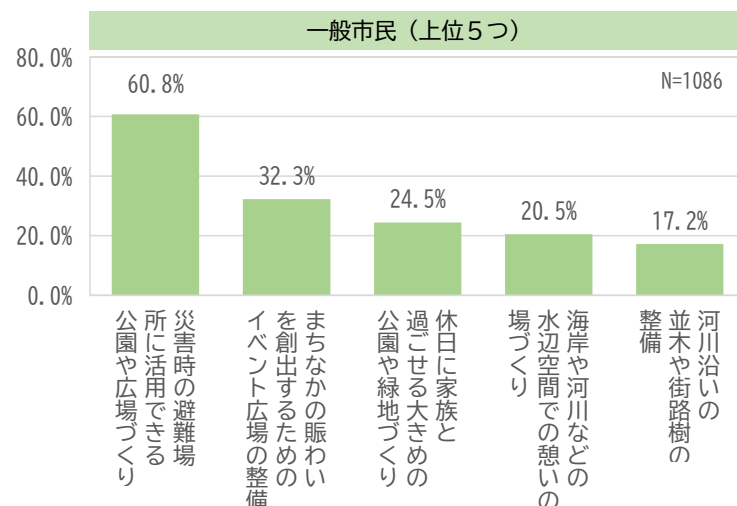
- ・ 市民・高校生ともに「バス等の交通手段の確保」や「歩道の整備・拡張やバリアフリー化」が多く挙げられました。
- ・ その他の上位意見は、市民で「まちなかに自動車で行きやすくする」、高校生で「自転車専用レーン等の整備」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(9) 公園や緑についての整備や取組

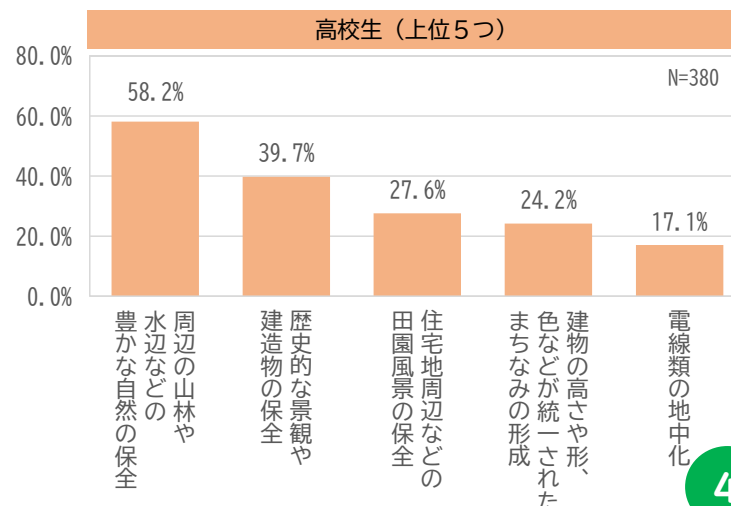
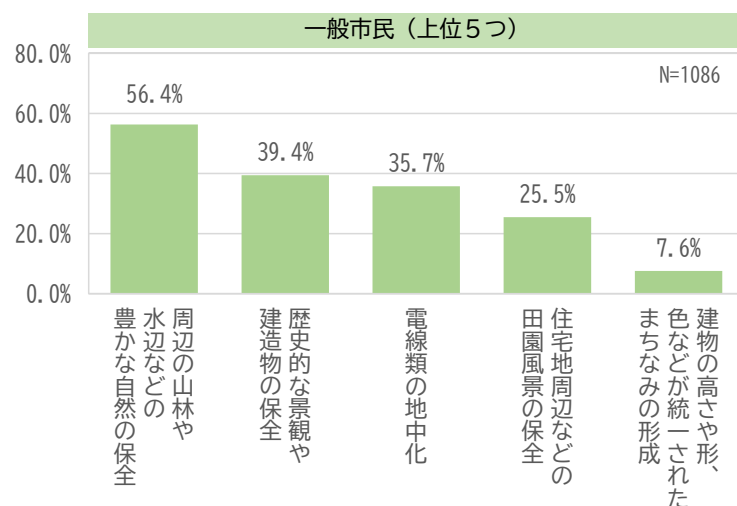
- ・ 市民・高校生ともに「災害時の避難場所への活用」や「賑わい創出のためのイベント広場の整備」、「大きめの公園や緑地づくり」が多く挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(10) 自然環境や景観についての整備や取組

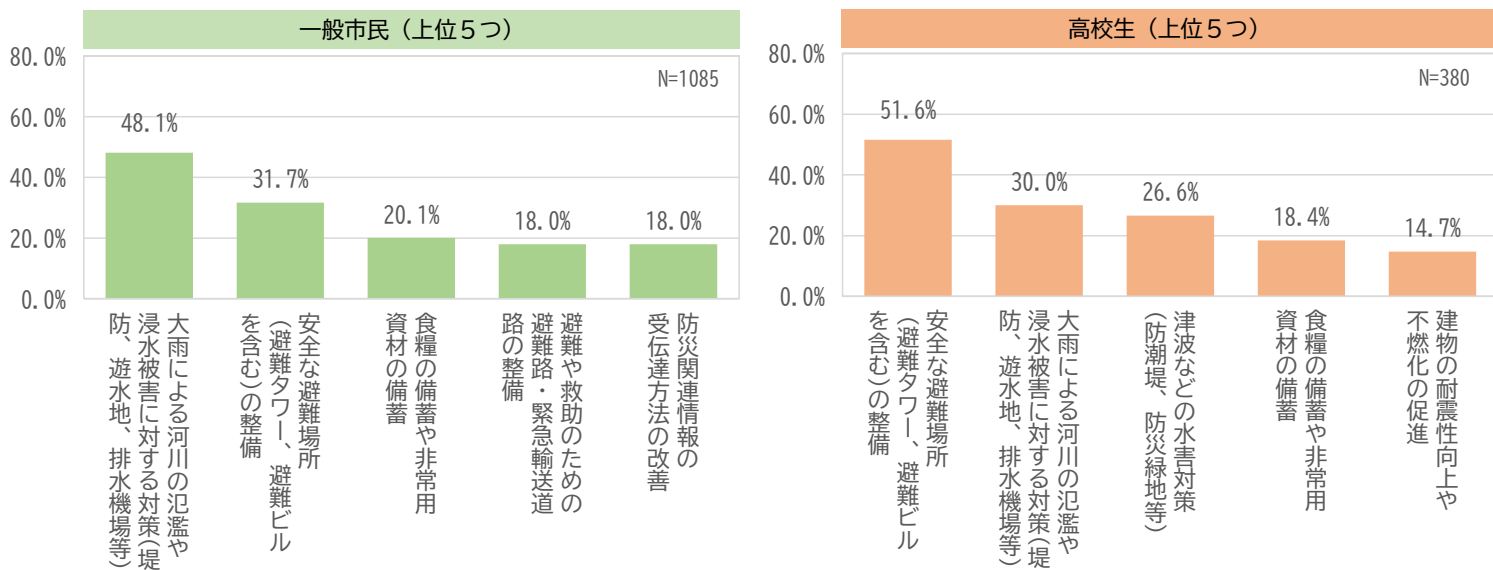
- ・ 市民・高校生ともに「豊かな自然の保全」や「歴史的な景観や建造物の保全」が多く挙げられました。
- ・ その他の上位意見は、市民では「電線類の地中化」、高校生では「田園風景の保全」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(11) 都市防災についての整備や取組

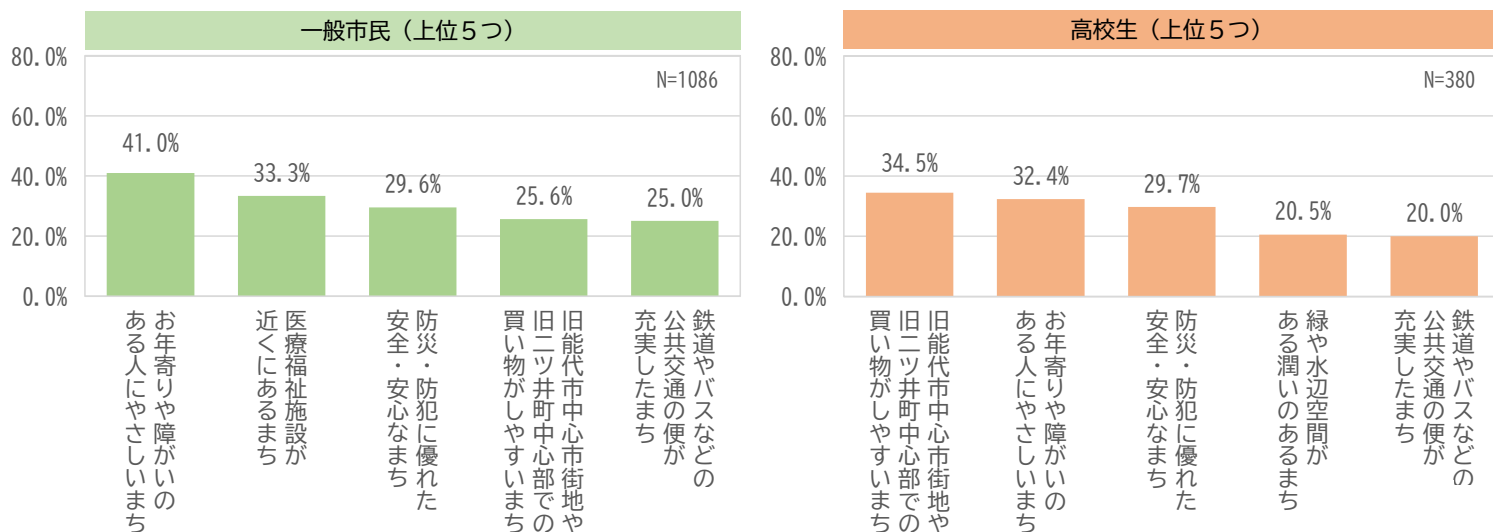
- 市民・高校生ともに「河川氾濫や浸水被害の対策」や「避難場所の整備」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「食料の備蓄や非常用資材の備蓄」、高校生で「津波などの水害対策」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(12) 20年後の能代市の望ましいイメージ

- 市民・高校生ともに「お年寄りや障がいのある人にやさしいまち」や「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「医療福祉施設が近くにあるまち」、高校生で「市街地中心部での買い物がしやすいまち」が挙げられました。

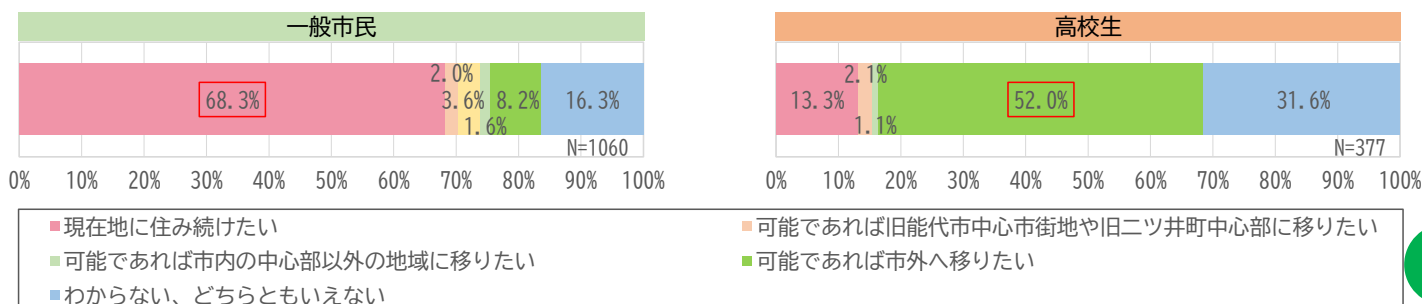


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(13) 住み替えの意向

①住み替えの意向

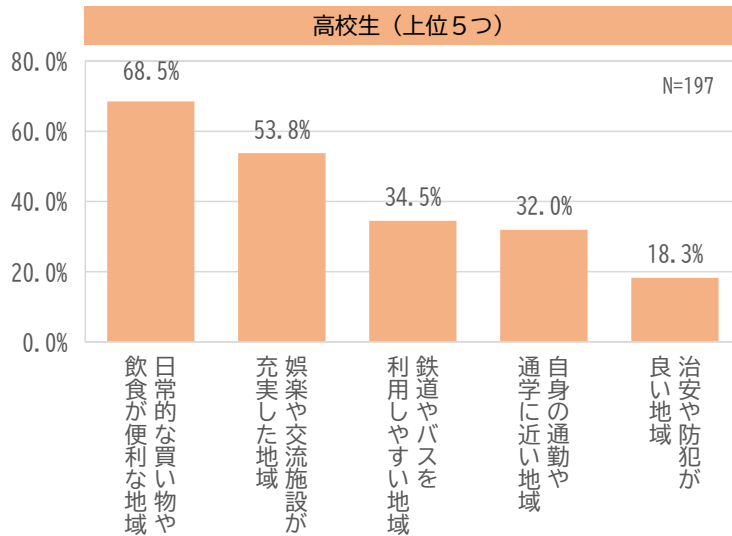
- 市民では「住み続けたい」が約70%を占めているのに対し、高校生では「可能であれば市外へ移りたい」が約50%を占め、市民との相違が確認されます。



(13) 住み替えの意向

②住み替えたい場所（高校生）

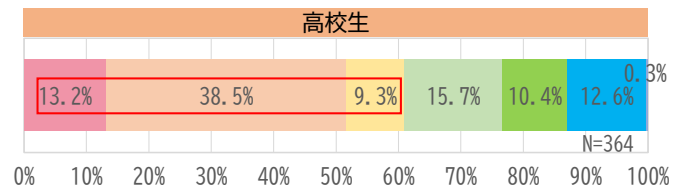
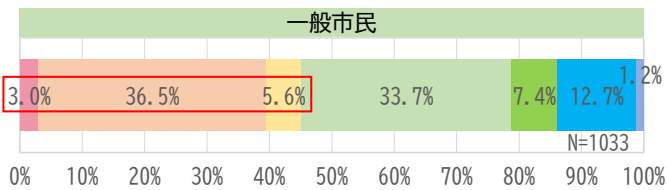
- 高校生で「市外へ移りたい」と回答した人は、住み替えたい場所として「買い物・飲食が便利な地域」や「娯楽・交流施設が充実した地域」、「公共交通が利用しやすい地域」を多く挙げています。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(14) まちづくり活動に対する意向

- 市民では、「なんらかの形で参加・協力したい」が約45%を占めています。
- 一方高校生では、「なんらかの形で参加・協力したい」が約60%を占め、市民よりも積極的な参加姿勢が確認されます。



■ 主体的・積極的に取り組んでみたい
■ 協力を求められれば、できる範囲で参加したい
■ 清掃活動やイベント運営支援であれば協力したい
■ 直接参加できないが、情報は受け取りたい
■ 興味がない・あまり関わりたくない
■ わからない
■ その他

【参考】住民と行政との協働のまちづくり活動事例

岩手県
大船渡市

- まちなか空間を生活者にとっての「活動場所」として認知を広げ、街の風景づくりに資する取組を実施（＝民が企画し、市は公共空間を開放し活動を支援）



栃木県
高根沢町

- 町が空き地活用等に向け専門部署を設置。駅前の未利用地の活用を支援し、マーケット等を実施（＝民が企画し、町は仕組みづくりと活動を支援）



調査にご協力いただき
ありがとうございました

出典：国土交通省資料

3. 瓦版について

都市計画マスタープランや立地適正化計画の検討状況を市民の皆さまへお知らせするため、主要な区切りで瓦版の発行を行っています。

瓦版は、市のホームページに公開するほか、市役所等の公共施設にて配布いたします。

お問い合わせ

能代市 都市整備部 都市整備課

〒016-8501 能代市上町1番3号

電話：0185-89-2197

FAX：0185-89-1779

E-mail：toshi@city.noshiro.lg.jp